

# とんだばやし認定調査通信 20号

## 4群(精神・行動障害)

4群の項目は社会生活上、場面や目的からみて不適当な行動の頻度を評価する項目です。  
チェックは、規定される行動があれば、周囲が対応していなくても選択します。(※例外 4-12)

### どっちが大変？

以下の例は、①②とも同じ「ある」ですが、同じ話をする頻度や、家族の対応の内容によって介護の手間が大きく変わってきます。

#### 4-5.同じ話をする 【選択】ある

<具体的頻度>

- ①週に1回程度、会話の途中でいきなり昔の仕事の話を始める。
- ②ほぼ毎日何回も、会話の途中でいきなり昔の仕事の話を始める。

あの時の仕事は  
大変だった！

また  
始まった



#### 4-3.感情が不安定 【選択】ある

<対応の内容>

- ①穏やかに談話しているのに、いきなり泣き出すことがある。  
家族はいつものことと思い、そっとしている。
- ②穏やかに談話しているのに、いきなり泣き出すことがある。  
家族はなぜ泣いているのか、その度に話を聞き、落ち着くのに30分はかかる。



### 今回のポイント 「具体的頻度」と「対応の手間」の記載が重要

特記事項はチェックに反映されない介護の手間を認定審査会に伝える重要なものです。  
今回は、「具体的頻度」と「対応の手間」を分けて解説しましたが、本来の特記事項には  
両方の記載が必要です。下記の書き方も参考にしてください。

具体的な頻度

4-1.被害的 【選択】ある

週に4~5回程度、「嫁にお金を盗られた」等、事実と異なることを話す。  
その度に家族は説明をしなければならず、落ち着かせるのに時間がかかる。

対応の内容

